

# 小児眼科

当院では毎週水曜日に小児を得意とする眼科医により、お子様の近視・斜視・弱視についての診断、治療のアドバイスを行っております。



## 弱視とは？

弱視は、50人に1人の割合で誰にでも起こりえて、症状をきちんと訴えることが出来ない子ども達では、発見することが大変困難です。早期発見・治療を行えば、4歳までの治療開始で95%が治癒しますが、逆に8歳を過ぎると治療がとても難しくなり、治療にタイムリミットがあることが最大の問題です。適切な治療で多くの子供たちが治ります。また、近年スマートフォンやタブレット学習の普及によりスマホ老眼、眼精疲労といった今までは大人の病気だったものが低年齢化され、スマホ内斜視といった新しい病気の概念が出てきています。小児では8歳頃までが大切な視覚の発達期です。症状を訴えない幼いお子様の場合、片目つぶりで見る、目を細めてみる、横目づかいで見る、上目づかいで見る、頭を傾けて見る、眩しがるなどの症状で発見されることもあります。お心当たりのある方はご相談ください。



当院では小児の近視進行抑制に力を入れています。

ご質問等ありましたら一度ご連絡ください。